

小山 堅 著「エネルギーの地政学」が「エネルギーフォーラム賞」優秀賞を受賞

日本エネルギー経済研究所専務理事 首席研究員 小山 堅 著「エネルギーの地政学」（朝日新聞出版刊）が3月1日、第43回「エネルギーフォーラム賞」優秀賞を受賞いたしましたのでお知らせします。

「エネルギーフォーラム賞」は、株式会社エネルギーフォーラムがエネルギー論壇の向上に資する目的で1980年に創設され、エネルギー・環境問題に関する著作を関係各界の有識者らによるアンケート結果を参考に選考委員会が選定して顕彰するものです。

<エネルギーフォーラムホームページ <https://energy-forum.co.jp/online-content/8199/>>

<小山 堅 コメント>

この度は、歴史と伝統ある「エネルギーフォーラム賞」の優秀賞を拙著「エネルギーの地政学」が受賞することになり、この上なく光栄に存じます。ウクライナ危機で内外エネルギー情勢が劇的な変化を遂げ、今後の展開に関する不透明感が高まる中、エネルギーの地政学という観点から、エネルギー問題を切り取ることを試みた本書がこの受賞でご評価をいただけたこと、筆者として誠にありがたく、心より感謝申し上げます。今後も、エネルギー問題に関する分析・発信を通じて微力ながら社会に貢献していく所存でございます。日頃の私の研究活動を支えてくださる諸先輩・同僚・友人・家族に心から感謝を申し上げ、受賞の言葉に代えさせていただきます。

<朝日新聞出版ホームページ https://publications.asahi.com/ecs/detail/?item_id=23716>

■□■小山 堅 著「エネルギーの地政学」（朝日新聞出版）■□■

ロシアによるウクライナ侵攻を契機に、世界中に電力危機が広まっている。エネルギー経済研究の第一人者が、複雑な対立や利害を内包するエネルギー問題を地政学の切り口で論じ、日本が安全保障上のリスクにどう対峙するかを提言する。加えて、原発再稼働、脱炭素などの政策と戦略についても考察する。

